

補足

1 教育評価の意味

<学びの質も高めたい。それは外部の基準で計られる学力ではなく個々の学習者がどこまで学んでいるかを自覚できて、次の目標に向けて努力することを促す「生成する知識」である。>(内外教育 2019・4・3)

2 教育とケアの違い (引き出すと教え込む、実践と理論の違いに通じる)(7月4日)

日本子ども社会学会26回大会から学ぶ

投稿日: 2019年7月4日 作成者: takeuchi

先週末(6月29日、30日)、東京成徳大学で日本子ども社会学会26回大会があり、参加しているいろいろなことを学んだ。学んだこと、そこで考えたことを記録にとどめておきたい。

「子ども理解」をめぐる、教員養成と保育者養成では違いがあるというテーマセッションの議論(片山悠樹氏他)を興味深く聞いた。教員養成の場合は、「子ども理解」というと、どのような視点から子どもを見るかで見える部分が違うので、視点をいろいろ変えて(見えない部分も)見るというのが必要と、教えている。子どもという実態が客観的に存在し、それを科学的な視点から明確にとらえることが必要と考えている。ところが保育者養成では、子どもがどのようなことを考え行動するのかということを静的に(客観的に)みるのではなく、動的に(実践的に)みる。たとえば、子どもが砂場で遊んでいて、そろそろ次の場面に移ろうと保育者が考え、それを子どもに促したところ、子どもがそれを嫌がり泣き出した時、子どもの気持ちと保育の実践との間で、子どもの気持ちに寄り添うにはどのようにしたらいいのかを考え、自分の実践力を高める。それが保育者の「子ども理解」というものである。先輩の保育の仕方を学び、自分の実践を鍛えることが大切。(これは、教育とケアの違いかもしれないと思った。保育は子どもを教育するよりはケアしている)

「子ども社会学研究」25号では、山田富秋氏が、「自律した個人ではなく、将来の市民社会の担い手として、依存とケアを必要とする子どもを社会の根底に位置づける必要に迫られる」と、ジョン・オニールとキティの理論を紹介し、シティズンシップの教育の提案しているのには感心し、学ぶべきものが多くあると感じた。

3 普遍性(客観性)にたどりつく方法(3つ) 地下を掘る—普遍性を探す 2019年7月16日

地下を掘る—普遍性を探す

投稿日: 2019年7月16日 作成者: takeuchi

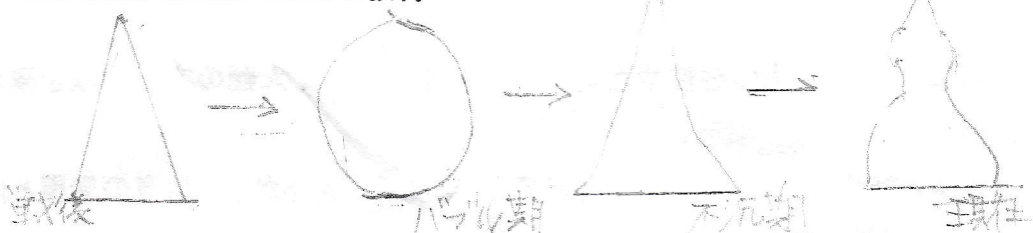
ものごとを見る見方には、鳥観図と虫観図の2つがある。鳥観図は、ヘリコプターに乗って森を見下ろすようなもので、虫観図は地上を這いずる回る虫の視点で木の葉1枚1枚を見るようなものである。どちらも同じものを見るにしろ、見えるものが違っている。でも目指すものは、普遍性である。

普遍性を探すという面では、もう一つの方法がある。それは、一つの場所から地下を深く掘るという方法である。どの場所であろうと深く掘っていくと、地下水に行き当たる。それが普遍性である。ケースを扱う研究やカウンセリングは、個別を扱いながら、多くの人に共通する普遍性(地下水)を探ろうとする。

そのような個別を深く掘り地下水を探すという方法は、吉本隆明がどこかで言っていたように思う。同じことを村上春樹が言っているとのことを内田樹のブログから知った。それ箇所を、転載しておく。

(blog.tatsuru.com/2017/05/14_1806.html)

4 社会階層(社会的格差)と教育



5 友達の大切さ—「レンタルフレンド」から考える

友人の価値—「レンタルフレンド」から考える

投稿日: 2014年5月31日 作成者: takasuchi

昨日(5月30日)のNHKテレビで、「レンタルフレンド」のことを扱っていて、友人の価値について考えさせられた。

普通の人にとって、友人(異性の友人も含む)は空気のような存在なので、その大切さを自覚しないし、それに価値があるとか考えない。しかし、とても貴重なもので、それをお金で買おうとするとかなりの高額になる。

世の中には、置かれた事情や生来の性格から友人が得られない人がいる。また、人はいつそのような状況に陥るのかわからない(村上春樹『女のいない男たち』参照)。それを考えると、今いる友人や友人関係を大事にしなければいけないと思う。

番組では、今友人のいない人、友人を求めている人に、「レンタルフレンド」を紹介する会社があること、そこに頼むと、友人をレンタルで貸してくれることを、事例をまじえて取り上げていた。

おたく系の若い男性(30代半ばくらい)が、キャッチボールをしながら、話し相手になってくれる女性をレンタルして、楽しそうに1時間を過ごすことができていた。料金は1万8千円。彼にとって、1万8千円は、「ガールフレンド」と1時間一緒に過ごせることを考えれば、高くない(最後に握手までしてくれている)。

60歳代の男性(妻を亡くし、91歳の母親を一人介護する日々を過ごしている)が、月に1度、母親がデイサービスに行っている昼間、一緒に海を見に行ってくれる女性をレンタルして、いろいろ悩みも聞いてもらい、満足げであった。料金は4万8千円。

相手をしてくれる人は、友人のように親身に話を聞いてくれ、レンタルした人に、心理的満足感を与えてくれる。その心理的満足への代償[支払]が、金額にすると1万8千円だったり、4万8千円だったりする。

「感情労働」というものがあるということであろうが、心理的奉仕に関して、支払われるものは、意外と高額である。(結婚や家族というものは、その高額の最たるものかもしれないが。)

この番組を見て、身の回りにある友人関係を大切にしたい、友人たちに感謝しなければいけないと思った。友人たちから多大な心理的慰めを受けている私は、一緒に食事をしたり飲んだりした時、割り勘ではなく、おごらなければいけないのかもしれないと思った。(学生も、私にとっては、友人のようなものである)

カテゴリー: 未分類 [パーマリンク](#)

- 1 教育とは、子どもの個性や可能性を引き出すことか、人類の文化遺産を教え込むことか
- 2 教育と社会(経済、政治等)は、どのような関係があるか。—教育の発展と経済の発展は、関係がある。
- 3 幼児期の育てられ方のその後への影響は大きいが、育児様式は、国によって違いがある。(日本は過保護で甘えが許されるが、アメリカは自立をめざして厳しい躰がなされる。)
- 4 学校における「隠れたカリキュラム」とは何か。子どもは学校の何から影響を受けるか。
- 5 「予言の自己成就」とは何か。(情熱や自尊感情はなぜ重要か?)
- 6 学校や学級では、どのようなルールがあり、どのようなマナーが求められているか。その機能(はたらき、効果)は何か。
- 7 家庭と学校の違いは何か
- 8 学校で教えられる知識の特質は何か。知識が「生きる力」になるのは、どのような時か。
- 9 教育は、なぜ法律によって規制されているのか。
- 10 「教育基本法」とは何か。その内容の特徴は?
- 11 学校は、官僚的な組織なのか。
- 12 子どもが不登校になる理由は何か。
- 13 学校でいじめが起きる原因は何か。どのような対策をとればいいのか
- 14 教育思想家とは、どのような人か。その主な内容は。
- 15 発達課題とは何か。子ども期(学童期)の発達課題は何か、青年期の発達課題は何か。
- 16 教師の仕事には、どのようなものがあるか。
- 17 教師に求められる資質や心構えは何か。
- 18 日本の教師は、なぜ多忙なのか。
- 19 「チーム学校」とは何か
- 20 教師は、ジェンダー(男女平等)の観点から、どのような点に気をつけて、教育、指導をすべきか。

(テキスト、1章、2章、3章、5章、7章、9章 参照。 それ以外は後期に扱う)